

事業紹介

県内企業向けの人材育成事業

—新たな研修メニューをスタート—

企画指導部 米澤保人(よねざわ やすと)

yonezawa.yas@irii.jp

専門：表面分析、故障解析

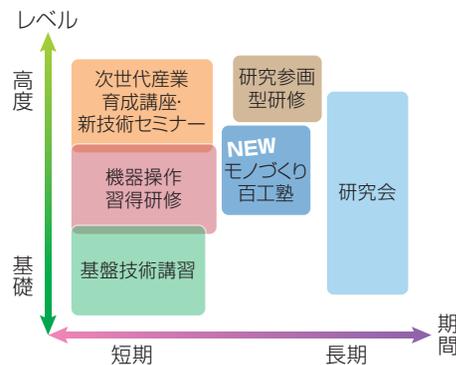
一言：工業試験場の人材育成メニューを、
目的に応じてご活用下さい。

近年の好景気および生産人口の減少から人手不足が深刻となっており、その対策として、AIやIoT、ロボットの積極的な活用が進められています。一方で、高度経済成長を支えてきた熟練工の大量退職に伴う技能伝承も、大きな課題として残されています。そのため、企業の成長を支えるには、限られた人材の育成が大きな鍵の一つと考えられます。

工業試験場では、県内企業の人材育成を支援するため、生産性や品質の向上などの基盤的な技術や新製品開発等に関して、最新技術の動向、実務者向けの研修に加え、中核的技術者の育成研修も実施しています。なお、これらの研修メニューは、期間やレベルでは、図のように分けられます。

□最新の技術や動向の習得

最新の技術や動向などの情報を提供する「次世代産業育成講座・新技術セミナー」を開催するとともに、深掘した情報交換の場として、3Dプリンタやソフトウェア技術、スマートテキスタイル、食品開発などのテーマ別に、企業が参加する10の「研究会」を運営しています。



□実務技術者のスキルアップ

「**基盤技術講習**」は、さまざまな現場で必要となる専門技術や知識を習得する座学を主とした研修です。また、「**機器操作習得研修**」は、工業試験場が保有する最新の機器などを対象とした、実習を中心とする研修です。機器の操作方法だけでなく、データの解析方法や結果の現場へのフィードバック手法等、機器を通したさまざまなノウハウが習得できます。

□中核的技術者の育成

「**研究参画型研修**」では、工業試験場が進めている研究開発に加わることで、技術力の向上や研究開発のノウハウが習得できます。

また、今年度から「**モノづくり百工塾**」を新設しました。モノづくり百工塾では、さまざまな業種における製造や品質管理など、モノづくりの基本となる重要な技術を4回にわたり深く学ぶ研修で、将来を担う中核的技術者を育成するとともに、受講者同士の人的ネットワークを形成することを目的としています。本年度は、表の5つのコースの開催を予定しており、各コース10名までの少人数で、座学、演習及び実習により体系的な技術の習得ができます。

なお、研修名は、加賀藩五代藩主、前田綱紀公が編纂した工芸の見本集「百工比照」に因んだもので、これには産業振興の狙いもあつたと言われています。

以上、ご紹介した研修は、随時工業試験場のホームページ(<http://www.irii.jp/seminar/index.html>)や産業創出支援機構からのメール配信サービス「DGnet」でご案内していますので、ぜひご活用ください。なお、詳細は工業試験場 顧客サービス担当 米澤、筒口(どうぐち)までお問い合わせください。

表『モノづくり百工塾』H30年度の開催予定コース

コース名	内 容	期 間
三次元測定機の測定技術コース	正確な形状・寸法の測定に必要な基準や条件、手順の設定方法など	8月～11月
食品開発のための衛生管理技術コース	食品特性や流通形態に合わせた微生物制御手法、衛生管理手法、衛生検査方法など	9月～10月
電子回路の低コスト設計及び解析技術コース	汎用増幅器および電源回路などのトランジスタを有効活用した回路設計・解析手法	10月～11月
繊維・高分子材料の品質管理技術コース	欠点の原因究明や品質管理に必要な機器の操作・試料作製手法など	10月～11月
伝統産業のための3D技術コース	製品形状の3Dデータ化手法と、自由曲面上への画像張付け時の歪み抑制技術など	12月

※各コースとも開催回数は4回